

茶病虫害防除情報

令和元年 7 月 22 日

【第 11 号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

大切な秋芽の充実を図る

秋芽生育期の病虫害防除対策

今年茶の生産も終盤になりました。梅雨末期豪雨後の蒸し暑い中の茶生産ご苦勞様です。今回は秋芽生育期の病虫害防除対策についてお知らせします。秋芽生育期は主要な病虫害が多発生します。これらの病虫害は秋芽の生育充実を損ない、大切な来年一番茶の収量・品質に大きく影響します。また、発生した病虫害は発生源となり、来年の発生量を左右します。この時期は労力には比較的ゆとりがあり、農薬の使用制約も少ないので入念な防除に努めましょう。今年も特に更新園が多いため秋芽の生育は様々ですので芽の生育状態に合わせた防除を心掛けます。

- ☆ 発生する病虫害・・・炭疽病 新梢枯死症 網もち病 **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミウマ** **チャノホカハマキ**類 **シャクトリムシ**類 **チャノホリダニ** **カンザワハダニ** **マダラカサハラムシ** **チャトゲコナジラミ**など
- ☆ 防除のすすめ方・・・秋芽生育期間中の被害を防ぐように 1 回目・萌芽～1 葉期、2 回目・3-4 葉期に混用散布による体系防除と補完防除で、総合的に病虫害を防除します。品種、更新園などで芽の生育が異なるので生育に合わせた防除をします。

☆ 病虫害の発生と防除のポイント

炭疽病 網もち病 新梢枯死症

降雨や多湿条件で生育中の秋芽の軟らかい新葉が感染しますので、秋芽生育期の天候に気をつけ、予防防除に努めましょう。基本的には萌芽～1 葉期に予防効果のある薬剤、3～4 葉期に治療効果のある EBI 系薬剤を散布して防除します。また、今年発表されたダコニール 1000 と EBI 系薬剤を混用して 2～4 葉期に 1 回散布する新技術(技術情報)は安定した高い防除効果があります。なお網もち病の発病の恐れのある茶園は生育後半に銅水和剤を、新梢枯死症はストロベリン系薬剤を 2 葉期頃に補完散布すると的確に防除できます。

チャノミドリヒメヨコバイ **チャノキイロアザミウマ** **マダラカサハラムシ**

今年の発生はこれまで降雨日がやや少ない天候などの影響で三番茶期まではやや多～並発生に経過しました。一般に乾燥した晴天が続くと急激に増殖し、秋芽の萌芽・生育期は最も被害を受けます。特に萌芽～生育初期の加害の被害が大きいため防除は遅れないようにします。増殖が速いため、残効性の長い薬剤で、2 回程度の防除が必要です。一部地域で増加しているマダラカサハラムシは萌芽・生育初期に同時防除します。

チャノホカ **チャノコクモンハマキ** **チャハマキ** **ヨモギエダシヤク**

チャノホカは第 4・5 世代、ハマキ類は第 3・4 世代の発生で、多発することがあります。いずれも若齢幼虫期をねらい体系防除でも防除できますが、多い場合や発生時期が合わない場合には専用剤で補完防除します。ヨモギエダシヤクは最近局部的に増加傾向です。発生がみられたら、若齢幼虫期に防除します。

カンザワハダニ **チャトゲコナジラミ** **チャノホリダニ**

最近カンザワハダニは更新園などに一時的に多発生することがあります。また、チャトゲコナジラミ、チャノホリダニも局部的に発生しています。体系防除で防除できる剤もありますが、多い場合は専用剤での防除が必要です。

☆ 防 除 対 策

秋芽生育期の病害虫基幹防除体系

防除時期	対象病害虫	防除薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用基準
秋芽生育期	炭疽病	1回目 (萌芽-1葉期)		
萌芽期	新梢枯死症	ベフトー水和剤	500~700	14日前まで2回
↓ ◎ 1回目	網もち病	ダニコール 1000 など	700~1000	10日前まで1回
1葉期	もち病	+ (混用)		
↓	褐色円星病	エクシレル SE	2000	7日前まで1回
↓	チャノミドリヒメヨコハシ	コテツフロアブル	2000	7日前まで2回
2葉期	チャノキイロアザミマ	ハチハチ乳剤 など	1000~1500	14日前まで1回
↓	チャノホリガハマキムシ類	2回目 (3-4葉期)		
↓	ヨモギエダシヤク	インダーフフロアブル	5000~8000	7日前まで2回
3葉期	チャノホリタニ	ホリワンフロアブル など	2000~3000	7日前まで2回
↓ ◎ 2回目	カンザワハダニ	+ (混用)		
↓	マダラカサハラハムシ	ガンバ水和剤	1000~1500	14日前まで1回
4-5葉期	チャトゲコナジラミ	ディアナ SC など	2500~5000	前日まで1回

秋芽生育期体系防除の他、問題になる病害虫の補完防除法

対象病害虫	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
新梢枯死症 (やぶきた園)	秋芽 2葉期頃	ダニコール 1000	700~1000	10日前まで1回
		アミスター 20フロアブル	2000	14日前まで3回
網もち病 (発生の多い園)	秋芽 4-5葉期 (8月下~9月上旬)	クプロシールト	1000	3日前まで -
		コサイト 3000	1000	14日前まで -
		フジトールフロアブル	500	14日前まで -
		Zホルト	400~500	7日前まで -
ハマキムシ類 チャノホリガ ヨモギエダシヤク	若齢幼虫期	アファーム乳剤	1000~2000	7日前まで1回
		ファルコンフロアブル	4000~8000	7日前まで2回
		エクシレル SE	2000	7日前まで1回
		ディアナ SC	2500~5000	前日まで1回
チャノホリタニ	秋芽生育初期	ガンマイトフロアブル	1000~2000	14日前まで2回
	発生初期	スターマイトプラスフロアブル	1000	14日前まで1回
カンザワハダニ	発生初期	ダニコールフロアブル	1000~2000	7日前まで2回
		ダニコールフロアブル	2000~4000	7日前まで1回
		ミルバノック乳剤	1000	7日前まで1回
チャトゲコナジラミ	若齢幼虫発生期	ガンバ水和剤	1500	14日前まで1回
		ディアナ SC	2500~5000	前日まで1回

秋芽生育期の炭疽病など病害の殺菌剤混用散布による新防除法(普及情報)

対象病害	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
炭疽病 新梢枯死症 網もち病	2-3 葉期	ダコニール 1000	700~1000	10 日前 1 回
	(萌芽後最初の 降雨から 11-	+	5000~8000	7 日前 2 回
	12 日後迄)	インダゴフロアブル 又は オンリーワンフロアブル	2000~3000	7 日前 2 回

- ☆ 混用の際の薬剤使用濃度は多発条件では高濃度、少発条件では低濃度など適宜判断する。
- ☆ ダコニール 1000 とインダゴフロアブルおよび主要殺虫剤との 3 種混用は散布試験の結果薬害などは確認されていない。
- ☆ 害虫防除の殺虫剤萌芽-1 葉期散布は必ず実施することが望ましい。本混用散布は殺虫剤 2 回目散布時に行うと良い。